

施策評価シート

評価年度	平成24年度	事業実施年度	平成23年度	施策主管次長名	教育部次長 塚本 直樹
施策番号	69	施策名	豊かな心と個性が輝くまち		
関係課名	学校教育課、教育行政課				

1. 施策の概要

施策の目的	対象	・市内小中学校児童生徒 ・保護者	対象指標名	単位	H22実績	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
			児童生徒数	人	6,925	6,822	6,895	6,795	6,678	6,564
意 図	子どもたちが元気で安心して生活ができ、進んで学習できるまちにする				成果指標名	教育相談件数(教育支援センター含む)				
					成果指標名	学校が楽しいと答えた児童生徒の割合				
					成果指標名	体力テストの県平均を上回った種目の割合(小5)				
					成果指標名	体力テストの県平均を上回った種目の割合(中2)				

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H22実績	H23計画	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
	教育相談件数(教育支援センター含む)	件	3,143	3,200	2,292	2,500	2,500	2,400	2,400
	指標設定の考え方と把握方法 人間関係等の悩みやストレスの量表す数値を教育相談の件数とし、学校教育課で把握する。								
指標	成果指標名	単位	H22実績	H23計画	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
	学校が楽しいと答えた児童生徒の割合	%	小90.2 中95.0	小95.0 中95.0	小90.1 中88.9	小92.0 中90.0	小93.0 中92.0	小95.0 中95.0	小95.0 中95.0
	指標設定の考え方と把握方法 学校が楽しいと感じることが、学習意欲と相関関係にある。児童生徒へのアンケートで把握する。								
指標	成果指標名	単位	H22実績	H23計画	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
	体力テストの県平均を上回った種目の割合(小5)	%	男75 女75	男75 女75	男87.5 女62.5	男75 女70	男75 女75	男75 女75	男75 女75
	指標設定の考え方と把握方法 学校を楽しめる児童の基礎体力を「体力テスト」で把握する。								
指標	成果指標名	単位	H22実績	H23計画	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
	体力テストの県平均を上回った種目の割合(中2)	%	男75 女75	男75 女75	男62.5 女12.5	男75 女50	男75 女60	男75 女75	男75 女75
	指標設定の考え方と把握方法 学校を楽しめる生徒の基礎体力を「体力テスト」で把握する。								

3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の効果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	学校教育への関心と理解を深め、学校・家庭・地域との連携で子どもたちの健全な育成を図る役割を担う。			
	行政	子どもが心身ともに健全で、通いたい学校、保護者が安心して通わせたい学校づくりをする			
達成度評価	成果目標(指標計画値)と現状との比較	・平成23年度の相談件数は、計画3,200件に対し、実績2,292件であった。 ・学校が楽しいと答えた児童は、計画95%に対し、90.1%、生徒は、88.9%であった。 ・体力テストが県の平均を上回った割合は、小5男子では計画を上回ったが、その他では下回り、特に中2女子は12.5%であった。			
	近隣との比較	豊田市は青少年相談センター(パルクとよた)を設置し、月曜日から土曜日にかけて臨床心理士などを常駐させ、保護者からの相談を受け付けている。刈谷市や知立市では学校で相談業務を行っている。本市では学習交流センター内に教育支援センターを設置し、多様な相談に対応している。			
	過去3年間の実績との比較	・相談件数は、平成21年度3,527件、平成22年度3,143件、平成23年度2,292件と減少傾向にある。 ・学校が楽しいと答えた割合は、平成20年度以降小学校は90%台で推移している。中学校は平成21年度より90%台であったが、平成23年度は若干下回った。体力テストは、小学校男子はほぼ同じ状況であるが、中学生女子は、大きく下回った。			
【優先度評価】 成果向上の余地、市長マニフェストとの結びつき、緊急度など	マニフェストに掲げられた教育支援センターを設置して3年目となる。相談事業をさらに充実させ、子ども、保護者によりそった支援をしていきたい。また、東海学園大学、愛知教育大学をはじめとする学生ボランティア事業により、学校における個別指導、特別支援活動を推し進めていきたい。				
【総合評価】 今後の方向性、課題解決のための事務事業の見直しなど	子どもたちが、元気で安心して生活するために、悩みを相談しやすい環境を整えたり、基礎的な体力、基礎学力の向上のための学習環境の整備をさらに進めたりする必要がある。また、「子どもが楽しい」と感じる一番の要素は、授業が楽しいことである。分かる授業、できる授業のために、教職員の授業力向上を図っていきたい。				
市民意識	重要度	高い	満足度	高い	平成23年度市民アンケート調査による